# 岬梨産地の今後について考えよう！

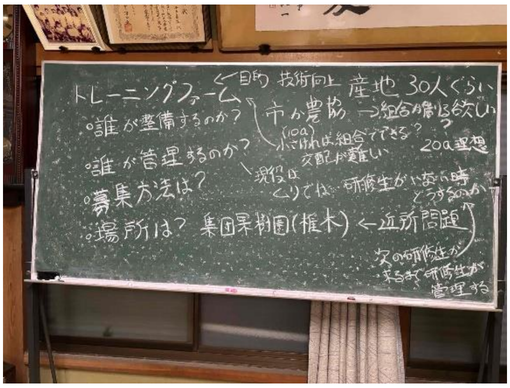
## ～安定的な担い手確保と産地の維持拡大に向けて～

夷隅農業事務所改良普及課　令和７年６月１０日発

一宮・岬梨組合岬支部では、生産者の高齢化や生産量の減少により、産地の縮小が続いています。一方で、近年後継者や新規参入者の就農が相次いでおり、新たな担い手の確保が進んでいる産地でもあります。そこで岬支部では、今後の産地を担っていく若手生産者、各地区の中心生産者や関係機関が集い、今後の岬梨産地について討議・検討する「岬梨産地を考える会」を令和４年度末から開催しており、第１０回の会議を６月３日に開催しました。今後も産地の縮小が進んでいく中で、産地を維持していくにはどの程度の面積や生産量が必要なのか、労力不足解消にはどのような取組を行うべきなのかなど、産地の将来を考える活発な意見が挙げられました。

今後も夷隅農業事務所では、産地維持に向けた話し合いを継続し解決策を探るとともに、新規就農者の育成・支援を通じた梨産地の維持・発展を目指し、取組を進めていきます。

議論の様子




挙げられた意見